

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名	城東区
学 校 名	大阪市立今福小学校
学校長名	柳井 友裕

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和6年4月18日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育局では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育局の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・大阪市立今福小学校では、第6学年 19名

令和6年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

【国語】国語の平均正答率は49.0 p で、大阪市を17 p、全国を18.7 p 下回る結果となった。無回答率は7.6 p で大阪市と比べて4.3 p、全国と比べて3.4 p 多かった。

【算数】算数の平均正答率は40.0 p で大阪市を22.0 p、全国を23.4 p 下回っている。無回答率は3.7 p と国語に比べると低かった。大阪市と比べて、0.5 p、全国と比べて0.3 p 高い。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕

領域別では「書くこと」の内容に一番課題が見られた。取材メモをもとにして条件に合わせて書いていく問題である。目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫していくことに課題がある。事実を考えた根拠として書くことにより、伝えたいことがより伝わっているかなど児童同士で書いた文章を読み合い確かめる場面を設定していくようにする。文章の基本となる主語と述語との関係をとらえることはできているが、漢字を文の中で正しく使うことにはまだ課題が残る。また、人物像や物語の全体像を具体的に想像することはできているが、登場人物の行動や会話、様子などの叙述を基にすることを引き続き指導していきたい。

〔算数〕

領域別では、「数と計算」の内容に一番課題が見られた。文章の言葉にまどわされず、問題場面の数量を図にして表し関係を自らとらえ、式に表すようにしていく必要がある。計算に関して成り立つ性質を活用して計算を工夫できるようにする。また、記述式の問題に関しても課題が残る。自分の考えを言葉や数を用いて筋道を立てて説明し問題を解決していくことが大切である。日常生活の場面で算数の知識を生かすことができる体験を増やし、生きて働く算数の良さを感じさせ興味を持って学習に向かうようにすることも重要だと考える。

質問調査より

「学校に行くのは楽しいと思いますか」では、88.9%の児童が肯定的にとらえ、全国と比べて高い。また、「先生はあなたの良いところを認めてくれていると思いますか」も、肯定的に答える割合がとても高い。少人数の学級で一人一人をきめ細かく児童の良いところや頑張ったことをほめて伸ばし、達成感や自己有用感を持たせる取り組みを続けてきた成果と考える。「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」では、83.3%の児童が肯定的に答え、全国と比べても高い。授業で話し合いの時間を取り入れている成果と考える。「普段1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか」では、4時間以上するという児童も多く、家庭での時間の使い方についても考えていく必要がある。

今後の取組(アクションプラン)

国語、算数ともに「書くこと」「記述式」の問題に課題があった。昨年度に引き続き今年度も国語科で読む力を高め、表現力を育成するというめあてを持って取り組んでいく。ペアやグループの中で分かりやすく伝える活動の時間は授業の中で必ず取り入れてはきたが、次は目的や意図に応じて自分の考えを根拠となることがらをはっきりさせて「書く」活動をどの教科でも取り入れていく。また、基礎基本的な学習の取り組みも継続していく。漢字学習や基礎的な計算の定着、デジタルドリルなどで朝の学習で個別学習的な学びの時間をとる。3年目となるが、今年度も漢字検定にチャレンジし、自分の目標に向かってチャレンジするなど意欲を持って取り組むことができるようにしていきたい。読書活動については読み聞かせや読書週間での取り組みに加えて、電子図書サービスを導入し、手軽に本に触れる機会を増やしていく。